

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（８２８））
2. 日 時：平成３０年４月２日 １３時３０分～１９時１５分
3. 場 所：原子力規制庁 ９階Ｄ会議室
4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

名倉安全管理調査官、江崎企画調査官、吉村上席安全審査官、岸野主任安全審査官、
千明主任安全審査官、津金主任安全審査官、安田主任安全審査官、照井安全審査官、
日南川安全審査官、植木安全審査官、三浦安全審査官、竹内技術参与、山浦技術参与
（技術基盤グループ 地震・津波研究部門）
山崎主任技術研究調査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：開発計画室 室長代理 他１６名

東北電力株式会社：原子力部（原子力設備） 担当 他２名

東京電力ホールディングス株式会社：原子力設備管理部 建築耐震グループ 担当 他１名

中部電力株式会社：原子力部 設備設計グループ 主任

北陸電力株式会社：土木部 耐震建築技術チーム 副課長

中国電力株式会社：電源事業本部（原子力耐震） 担当 他１名

電源開発株式会社：原子力技術部 設備技術室 担当 他２名

5. 要旨

（１）日本原子力発電から、３月２９日及び本日の提出資料に基づき、東海第二発電所の工事計画認可申請に係る耐震設計の基本方針、屋外重要土木構造物の耐震安全性評価について、説明があった。

（２）原子力規制庁から主に以下の点について指摘を行った。

＜屋外重要土木構造物の耐震安全性評価について＞

- 間接支持構造物に対し、機器・配管設計用床応答値の算定用断面について整理して提示すること。
- ジョイント要素に関してせん断剛性、圧縮剛性の設定の根拠及びその妥当性について、整理して提示すること。
- 地震応答解析の地盤モデルに用いる双曲線モデル（H-D モデル）の選択根拠について、整理して提示すること。
- 豊浦標準砂等の液状化強度の使い分け方について、検討ケースを含めて、設計方針として明示すること。
- 参考とする規格・基準類の用途について、具体的に整理して提示すること。
- 設計対象断面及び部位の選定方針について、各部位の要求機能及びその機能を損なう事象を踏まえ、整理し提示すること。
- 有限要素法モデルへの入力地震動の算定について表層地盤の影響を考慮しないことの根拠及びその妥当性を整理して提示すること。
- 構造物と側方地盤の境界部分について、構造仕様や施工方法を踏まえた側方地盤のモデル化の考え方を示すこと。

- 対象構造物の断面選定の方針について、構造特性及び地震応答特性等を踏まえ、構造物毎に分類して、整理し提示すること。

＜工認の審査の進捗状況＞

- 説明資料の提出については、事前提出の日時を遵守すること。

（３）日本原子力発電から、本日の指摘等について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・ 地震応答解析の基本方針